

令和2年第9回産業建設常任委員会 要点記録

開閉会日時		令和2年10月23日（金曜日）		開会	9:57		現地視察 会議場所		本別海 委員会室 2・3		
閉会				閉会	14:05						
委員の出欠		1 番	宮越 正人	出席	6 番	大内 省吾	出席	9 番	今西 和雄	出席	
		10 番	小林 敏之	出席	11 番	瀧川 榮子	出席				
出席説明員	産業振興部	産業振興部長		産業振興部次長兼水産みどり課長			農政課長		商工観光課長		
		門脇 芳則	出席	小湊 昌博		出席	小野 武史		欠席	田畑 直樹	出席
		農政課主幹		商工観光課主幹			商工観光課主幹		水産みどり課主幹		
		上田 健一	出席	岩口 裕昭		出席	堀込 美穂		出席	大坂 恒夫	出席
		農政課主査		農政課主査			水産みどり課主査				
		武田 文吉	欠席	寺澤 淳司		欠席	古里 達也		出席		
	建設水道部	建設水道部長		建設水道部次長兼管理課長			事業課長		建築住宅課長		
		山岸 英一	欠席	伊藤 一成		欠席	袴田 充輝		欠席	川畑 智明	欠席
		上下水道課長		事業課主幹			上下水道課主幹		管理課主査		
		外石 昭博	欠席	廣島 静治		欠席	福原 仁史		欠席	前道 陽司	欠席
		管理課主査		建築住宅課主査			建築住宅課主査		事業課主査		
		伊藤 武史	欠席	入田 浩明		欠席	篠田 敬介		欠席	佐竹 和仁	欠席
		事業課主査		上下水道課主査							
		板垣 正博	欠席	植松 拓也		欠席					
	農業委員会	農業委員会事務局長		農業委員会主幹			農業委員会主査				
		中村 公一	欠席	棧木 直人		欠席	藤巻 成司		欠席		
	委員外の出席								合計	名	
	事務局職員		事務局長	小島 実					合計	1名	
傍聴者数		一般	0名	報道関係者	0名			合計	0名		
会議に付した事件及び会議結果など											
発言者		会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。									
委員長	9番	今西	9:57 開会								
			出席委員5名、会期1日								
委員長	9番	今西	【現地視察 9:58 ～ 12:00】								
			議事1 所管事務調査について								
産業振興部長	門脇		(1) 水産業振興策について（モクズガニ駆除） 別海漁港 概要説明								
			(2) 橋梁長寿命化修繕計画について（新昭和橋補修工事） 資料説明								
事業課主査	佐竹										
			12:00 帰庁 12:00～13:00 休憩 昼食 13:00 再開 【産業振興部所管事務調査】								
委員長	9番	今西	(3) 森林環境譲与税を活用した民有林等の整備について								
産業振興部次長	小湊		①目的 ②関係法律 ③活用できる事業 ④市町村への譲与税額算定式 ⑤本町に入る譲与税額 ⑥実績 ⑦森林環境譲与税基金の状況 ⑧今後の計画 ～ 資料で説明								
			・森林経営管理制度意向調査業務委託（継続）10年計画 ・河畔林整備事業（植栽にかかる費用） ・北海道林業・木材産業人材育成支援協議会（北の森づくり 学園）への協賛金（継続） ・実のなる木事業、憩いの森公園、尾岱沼みなと公園植栽								

令和2年第9回産業建設常任委員会 要点記録

	小中学生の卒業記念樹 ・基金積立～道から示されている私有林の整備、林業の担い手対策 普及啓発などに充当予定。		
委員長	9番	今西	質疑
委員	11番	瀧川	・賛助金の「北の森づくり学園」は道内すべての自治体か。金額は。
産業振興部次長		小湊	・道内のほとんどの自治体が賛助している。別海町は年5万円。
委員	11番	瀧川	・賛助金額は自治体で決めるのか。定額か、人口割とかか。
産業振興部次長		小湊	・道で設立した学園。道の試算が5万円。金額の指定はない。
委員	1番	宮越	・私有林の整備は個人申請か。その後町が調査するのか。
水産みどり課主査		古里	・この事業では、まだ私有林の整備は行っていない。
			現状の私有林は森林組合が整備を行っており、補助率は国・道が68% 未来につなぐ森づくり推進事業が道・町で26%、植栽については残りに 対して90%町が補助している。個人負担は全体の6%程度。
委員長	9番	今西	・森林が主要産業の自治体と本町のような自治体で、譲与税の使い道が 違うと思うが、今後も私有林の整備を進めるのか。
			・森林には経済林と環境林があり、本町では環境林になる。（立木安価） 本町の場合は私有林を守り、環境を守るための木として維持したい。
産業振興部次長		小湊	・所有者自身で森林経営が困難な方に対して手厚く支援する。
			・ほったらかしで、手入れしていない私有林を、森林組合などに預けて森林 環境譲与税を利用して整備することを促すのが目的。
水産みどり課主査		古里	・森林経営管理制度意向調査業務委託の成果は。
産業振興部長		門脇	・所有者100名を調査。全体で727名の所有者がいるので、調査に7年 程度かかる予定。今後アンケート調査に基づいて、自分で整備できない、 整備を町や森林組合に委ねたいなどの意向調査を再度確認し、事業 推進につなげていきたい。
			・意向調査はどのように進めるのか。
委員長	9番	今西	・100名程度を森林組合に委託したい。
水産みどり課主査		古里	
委員長	9番	今西	(1) 水産業振興策について（モクズガニ駆除） 資料で説明
水産みどり課主幹		大坂	①事業目的 ②駆除の実績及び計画 ③被害状況
			④駆除実施方法（写真）
委員長	9番	今西	質疑
副委員長	6番	大内	・駆除の期間は。
水産みどり課主幹		大坂	・春が2か月間くらい、秋が1か月間ほど
委員	10番	小林	・平成30年度までは9 t くらいだが、以降は一気に増えたのか。それとも 過去は9 t 程度に抑えていたのか。
			・有害生物駆除の目的で当初行っていた。モクズガニだけでない。 平成28年ごろから漁網を切られるとか、ニシンの産卵アマモに被害がある として駆除するようになった。期間が短いと獲れなかった。
水産みどり課主幹		大坂	・平成30年まではヒトデ駆除が主だったが、ヒトデがいなくなってモクズガニが 獲れるようになった。
産業振興部次長		小湊	・モクズガニが増えていく要因は。
			・わかりません。
委員	10番	小林	・昔も今ぐらいのモクズガニがいて、駆除した経緯があると話を聞いている。 ある時期に、ぱったりといなくなっただけ。
水産みどり課主幹		大坂	それが、また風連湖で急激に増えだし、今は尾岱沼や別海漁港でも見られる。
産業振興部次長		小湊	

令和2年第9回産業建設常任委員会 要点記録

副委員長 6番 大内

産業振興部次長 小湊

産業振興部長 門脇

委員 1番 宮越

産業振興部次長 小湊

委員長 9番 今西

産業振興部次長 小湊

委員長 9番 今西

商工観光課主幹 堀込

- ・カニの量が多いが、駆除は補助金の中でやっていけるのか。
- ・1/2が漁協負担なので、量が多くなるほど漁協の負担になる。
- ・この事業は漁協に対して、かかった経費の1/2を負担している。船代や人件費はその中から払っているの、漁師の負担はない。今年度から北方領土隣接地域振興等推進費補助金も利用している。
- ・販売活動はしているのか。
- ・泥抜きをして処理すれば流通はあるかも知れないが、処理に時間と経費がかかるので、流通は考えていない。活用できる方法を模索している。
- ・黒バックや水槽のモズガニは何日分か。
- ・3日分くらい。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策の影響に対する経済対策について

・地域中小企業緊急支援事業

中小企業等経営持続化補助金（3月・4月） 115件

6/19申請分への追加交付額を合わせて 36,922千円

中小企業等経営持続化応援金（5月売上分） 121件 23,605千円

合計 60,527千円

商工会への事務手数料 301千円

中小企業等経営持続化補助金 会員 85件 85千円

非会員 30件 60千円 145千円

中小企業等経営持続化応援金 会員 86件 86千円

非会員 35件 70千円 156千円

・地域経済活動支援事業（プレミアム商品券）

発行枚数 25,000セット プレミアム率 50%

第1回

販売セット数 15,000セット 券販売期間8/20～9/10

申請件数 1,903件 5,163セット

第2回

申請件数 1,684件 19,837セット

10/21現在 利用状況

共通券 47,152千円 飲食・宿泊 8,952千5百円

大型店以外限定 18,353千5百円 全体 73,458千円 39.7%

商品券の利用は12/31まで

委員長 9番 今西

質疑なし

委員長 9番 今西

議事2 その他について

(1) 秋サケ漁の状況について

・別海漁協 2019年 480t 2020年 251t 対前年52%

対前年 69% 180,616千円

・野付漁協 2019年 1,954t 2020年 733t 対前年38%

対前年 49% 541,101千円

不漁原因は、地球規模の海水温の変化や、稚魚の放流時期かなど様々な説が言われているが、特定することは難しい。

委員長 9番 今西

質疑

委員 1番 宮越

・オホーツクとの漁の差は分かるか。

水産みどり課主幹 大坂

・把握していない。

令和2年第9回産業建設常任委員会 要点記録

副委員長 6番 大内	・卵の確保はどうか。
水産みどり課主幹 大坂	・卵も確保が難しい。根室北部と南部に分かれているので確保できる方から譲ってもらって確保している。
産業振興部長 門脇	・管内増殖協会の理事として補足したい。根室管内は例年卵を確保しているが、釧路管内では確保をあきらめたところもある。全道的にも確保は厳しい状況。今後漁業者も卵確保のため漁を止めることも考えられる。
	ただ、確保して稚魚を放流したとしても、4年後に戻ってくる保証がないので増協に対しても激しい突き上げがある。放流方法、放流時期、放流場所なども含めて見直していかないとならないと増協も模索している。
副委員長 6番 大内	・温暖に適した魚種の採卵、育成はあり得ないのか。
産業振興部長 門脇	・温度に適応した魚種は考えていない。海水温の変化はわかるが、海の中で何が起きているかはわからない。北海道も秋サケの特別対策チームを立ち上げたが、始まったばかりなので原因を究明して対策を立てれるものではない。まずは卵を確保してふ化事業を進めるしかない。
副委員長 6番 大内	・養殖銀サケなどが出回っているが検討はしないのか。
産業振興部次長 小湊	・根室市では水産研究所で紅サケの養殖をやっているが、本町は現在のところ考えていない。
委員 1番 宮越	・稚魚の放流数は道なり、国で決まっているのか。
水産みどり課主幹 大坂	・限られている。道増協なり管内増協が決めることである。
委員 1番 宮越	・稚魚数はどのくらいか。
産業振興部長 門脇	・河川ごとに決められている。管内・道増協のなかで割り振っている。
委員 1番 宮越	・北海道の全体枠があり、それを各管内増協が割り振っているのか。
産業振興部長 門脇	・各管内増協での目標数があり、それを積み上げたのが全道の放流数。
委員 1番 宮越	・言うことは、管内増協は限りなく増やせるのではないか。
産業振興部長 門脇	・遡上数や自然採卵を考慮した中で計画するので青天井では出来ないし、運搬などもあり、簡単に増やすことは難しい。漁業者も入った中で理事会などで数量を決めていく。
副委員長 6番 大内	・河川という河川全部に放流するのか。
産業振興部次長 小湊	・主要河川のふ化場を有している河川に放流している。
委員長 9番 今西	・秋サケ不漁の原因究明を関係機関が進めることと、漁業不振への行政の施策や関わりは。
産業振興部長 門脇	・今後、漁模様を見ながら対応を考えていきたい。
委員長 9番 今西	(2) その他について
副委員長 6番 大内	・新聞報道の中春別で町道に堆肥をバラまいた件はどうなったか。
産業振興部長 門脇	・コントラ業者がトラックのあおりのピンがはずれたまま気づかずバイオガス発電プラントまで走行してしまった。乾いた堆肥だったので、きれいに除去し石灰をまいた。野付漁協にも報告している。
委員 10番 小林	・年末に向けて飲食店の利用協力を願いたい。
産業振興部長 門脇	・密にならないように配慮して協力したい。
委員長 9番 今西	閉会挨拶
委員長 9番 今西	14:05 閉会